

母性看護学実習

実習要項

母性看護学実習

I 実習目的

母性看護の対象を理解し、女性の健康の促進へ向けた看護の役割について学ぶ

II 実習目標

- 1 対象の生理的变化をふまえ、健康促進へ向けた看護について考える
- 2 母性看護の対象に向けた、地域における看護の役割について考える

III 評価規準（めざす姿）

- 1 対象者の身体・心理・社会的な健康状態を表現する
- 2 対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する
- 3 生命の尊厳について自己の考えをもち、対象者の考えを尊重して関わる
- 4 女性が地域で安心して暮らしていくための母性看護の役割を表現する

IV 単位と時間数及び実習場所

2単位 90時間

実習内容	実習場所	実習時間	実習時期
地域女性支援 施設見学実習	静岡市女性会館	4 時間	3 年
病院実習	静岡市立清水病院 (3階病棟 LDR 新生児室)	54 時間	
外来実習	オハナクリニック木の下町	18 時間	
	助産師外来・助産師相談室 (2 階産婦人科外来)		
助産所実習	助産所 (助産院こうのとりの、ふね助産院、渡辺助産院)	9 時間	
学びの統合	静岡市立清水看護専門学校 (学内)	5 時間	
	計	90 時間	

V 学習内容

学習活動	実習場所	実習内容	評価規準	評価資料
母性看護 の対象に ついて理 解する	清水病院 3階	◆ライフサイクル各期にある女性の特徴と健康状態を理解する。 ◆妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の各期の生理的变化について理解する 1) 妊娠経過の情報収集 2) 分娩進行の観察と評価（分娩監視装置の装着） 3) 分娩経過の観察 ・分娩の3要素、3要素と分娩経過との関連性、陣痛の観察、産婦の全身状態の観察、児心音の観察、食事や水分摂取と排泄の状況、休息状況	対象者の身体・心理・社会的な健康状態を表現している	母性看護学 実習記録 I・IV ミーティン グ、カンフ ァレンスの 発言、面接

		清潔の状況 4) 家族の心理、社会、経済的な様子 5) 胎盤娩出状況の観察、胎盤の観察と計測、子宮収縮状態の観察 6) 出生直後の新生児の生理的特徴 ・子宮外生活適応過程、生理的变化、健康状態、発育状態の観察 7) 褥婦の観察 ・全身状態、心理状態 ・子宮復古の観察（子宮の状態、悪露、後陣痛） ・乳房の変化、乳汁分泌状態の観察、授乳の様子 ・食事、睡眠、清潔、排泄、活動 ◆女性特有の健康問題を抱えた方の健康状態を理解する 1) 常在・病理的条件の情報収集 2) 観察とアセスメント ・全身状態、心理状態 ・女性生殖器の観察 ・食事、睡眠、清潔、排泄、活動 ・家族の心理、社会、経済的な様子		
	新生児室	◆新生児期の生理的特徴と生理的变化を理解する 1) 出生経過の情報収集 2) 全身状態、生理的体重減少、黄疸、原始反射の観察、成熟徴候の観察、排泄状態、哺乳状態 3) バイタルサインの測定と身体計測 4) 母子相互作用		
	外来	◆妊婦健康診査の見学を通し、妊娠各期の生理的变化と胎児の状態を理解する 1) 妊婦の健康状態と胎児の発育状況 ◆助産師による診察、指導の見学を通し、妊婦・褥婦の生理的变化と胎児・新生児の状態を理解する 1) 妊婦・褥婦の健康状態と胎児・新生児の発育状況 2) エジンバラ ◆女性特有の健康問題の理解をする 1) 婦人科外来を訪れる患者の症状・検査・治療 ◆地域の診療所を訪れる方の特徴を理解する 1) 診療所を訪れる患者の症状・検査・治療		
	助産所	◆助産所を訪れる方の特徴を理解する 1) 妊婦健康診査、乳児健康診査、新生児訪問、子育てサロン等に参加する方の様子		
	女性会館	◆女性会館を訪問し以下の内容を学ぶ 1) 女性会館を訪れる方、電話相談をする人の特徴 2) 女性の身体、心理、社会的な様子 3) 女性と家族またはパートナーの抱える問題が、周囲に与える影響や社会生活に及ぼす影響を知る		
母性看護の対象者	清水病院 3階	◆妊娠期に必要な看護を理解し、指導のもと実践する 1) 妊婦のセルフケア不足に対する援助（休息、食事、	対象者に必要な看	母性看護学 実習記録Ⅰ・

に必要な看護援助を実践する		排泄、清潔) 2) 腹囲・子宮底の測定、分娩監視装置の装着 3) 対象者に必要な保健指導（切迫早産、妊娠高血圧症、妊娠糖尿病、食事指導） ◆分娩期に必要な看護を理解し、指導のもと実践する 1) 分娩第Ⅰ期の看護 ・陣痛発作時の看護（補助動作としてマッサージ、圧迫法、呼吸法、弛緩法） ・安楽な体位、姿勢の工夫、睡眠と休息の工夫、食事と水分摂取の工夫 2) 分娩第Ⅱ期の看護 ・産婦の準備（安全な移動、外陰部の消毒） ・陣痛に合わせた呼吸法、努責指導 3) 分娩第Ⅲ期の看護 ・排泄の援助、清潔の援助、家族への配慮 4) 分娩第Ⅳ期の看護 ・子宮復古の援助、母子対面時の看護 5) 帝王切開術を受ける産婦の看護 ・術前のオリエンテーション ・術後合併症の予防の準備と観察 ・母子分離状態に対する看護 ◆産褥期に必要な看護を理解し、指導のもと実践する 1) 褥婦のセルフケア不足に対する援助（休息、食事、排泄、清潔） 2) 子宮復古促進の援助、産褥体操 3) 乳汁分泌促進のための援助、乳房管理 4) 児との関係確立の援助（授乳介助、児への関わり） 5) 育児にかかわる看護 6) 褥婦を取り巻くサポート態勢への看護 ◆女性特有の健康問題のある女性を理解し、指導のもと実践する。 1) 対象者のニーズに合わせた日常生活援助と看護 2) 手術前・後の観察と看護 3) 対象者に必要な保健指導（退院後の日常生活、性生活、異常時の対応）	護を根拠に基づいて実践する	Ⅱ 実習状況
	新生児室	◆新生児期に必要な看護を理解し、指導のもと実践する 1) 育児技術の実践、指導の見学 2) 安全な抱き方・あやし方 3) 授乳の援助・ミルクの飲ませ方・排気の方法 4) 清拭・沐浴、衣服の着脱・おむつ交換		
	外来	◆産科外来における必要な看護（妊娠・産褥）を知る 1) 妊婦健康診査の診察の介助・保健指導の見学 2) 助産師相談室で腹囲子宮底の計測 保健指導の見学と実施 ◆婦人科外来における必要な看護を知る 診察の介助・日常生活指導の見学		

		◆母親学級 1) 母親学級に訪れる対象の様子		
看護専門 職者とし ての倫理 観をもつ	各実習場 所共通	◆生命の誕生について考える 1) 妊娠、出産、育児に対する対象の思い 2) 生命の誕生・命を育てることの意味 3) 安全で快適な妊娠、出産、育児について ◆生命倫理について考える 1) 多様な性 2) 不妊治療 3) 女性特有の健康問題を抱えた方と家族の思い 4) 生涯にわたる母性への支援 ◆リプロダクティブヘルス/ライツについて考える 1) 生涯にわたる女性の健康支援 2) 女性の自己決定権	生命の尊 厳につい て自己の 考えをも ち、対象 者の 考えを尊 重して関 わる	母性看護学 実習記録 I・IV 実習状況 ミーティ ング、カン ファレンス の発言、面 接
母性看護 の役割を 理解する	清水病院 3階	◆女性の一生を支えるための生活支援の実際を知る 1) 退院後の療養に対する対象の身体・心理・社会的 変化と養育に必要な支援 2) きょうだいや家族に対する家族関係再構築への 看護 3) 育児不安、職場復帰への支援	女性が地 域で安心 して暮ら していく ための、 母性看護 の役割を 表現して いる	最終レポー ト 実習状況 ミーティ ング、カン ファレンス の発言、面 接
	新生児室	◆育児に必要な支援の実際を知る 1) 退院後の生活に向けた育児支援		
	外来	◆外来受診の意義と目的 1) 妊婦健康診査、産後健診 2) 婦人科受診・検診 3) 各期に応じた保健指導 ◆母親学級（集団指導の実際） 1) 母親学級での指導 ◆地域における診療所の役割を考える 1) 診療所の機能・役割・診療の実際		
	助産所	◆地域における助産所の役割を考える 1) 助産所の機能・役割・活動の実際 2) 妊婦健康診査の方法の理解 3) 新生児訪問、子育てサロンの参加 4) 助産師の対象への関わり方 5) 周産期における看護の役割		
	女性会館	◆地域における女性会館の役割を考える 1) 女性会館の機能・役割・活動の実際 2) 多職種との連携 3) 女性の健康を支える看護の役割		

VI 実習方法

1 女性会館見学実習（4 時間）

時間	場所	ねらい	学生の動き
PM	女性会館	地域における女性会館の役割について考える	◆女性会館の日程に応じ、指導者の指導のもと見学実習をする ※当日の開始時間を教員へ確認すること ・施設職員へ挨拶 ◆館長もしくは施設職員より以下の説明を受ける ・施設の概要と特性、職員の概要 ・男女共同参画推進事業の紹介 ・利用者の状況（女性の身体、心理、社会的な様子） 電話相談、多職種連携 ◆館内見学と講座参加 ◆施設職員指導のもとワークと学びの共有 ◆施設アンケートの記入

<移動手段>

自転車・バイク可 施設の駐輪場を使用する際は前日までに総リーダーが人数を集計して担当教員へ伝える

<服装について>

白またはグレーのポロシャツ、黒またはグレーのパンツスタイル、髪は束ねる

<持ち物>

事前学習資料・テキスト・水筒・名札

<記録について>

① 母性看護学実習記録Ⅳとラベルを記入して見学実習後に提出する

※ 提出日は教員へ確認すること

② 返却された記録物は、個人の実習ファイルに綴じ込み、最終記録とともに提出する

2 病院実習（6 日間）

1) 1 日目 オリエンテーション（9 時間×1 日間）

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階 (旧 3 B で管理報告 その後、 旧 3 A へ 移動) 産婦人科 の申し送り を受ける) 学生全員	実習場所の特徴と日課を知り、実習方法についてイメージする 婦人科患者、妊産褥婦の入院中の生活の理解 診察介助の方法の理解 児心音の聴取、モニタリング方法、分娩時の努責の誘導方法の理解 新生児の生活と必要な援助技術理解と 褥婦の退院後の生活の理解 外来の特徴を知り、実	<実習オリエンテーション> ◆病院オリエンテーション ・実習目的、目標、実習場所、方法の確認 ・病棟の施設設備、病棟の日課について ・婦人科患者、妊産褥婦の 1 日の流れ(婦人科手術、経膣分娩、帝王切開術)を知る ・内診台の昇降介助方法、学生同士で患者と看護師役になり声かけや方法の確認 ・観察室でレオポルドの触診、モニタリングの方法の確認、安楽な体位の工夫方法 ・分娩台に乗り、努責や産婦への誘導方法の体験 ◆新生児室のオリエンテーション ・新生児室の入退出方法（感染予防対策） ・新生児の抱き方、おむつの替え方、バイタルサインの測定方法、沐浴方法の確認 身体計測の実施 ◆助産師外来・相談室オリエンテーション
休憩			

(3) 産婦の看護実習 (LDR 室)

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階 (1 日目と 同じ)	産婦の看護について理 解する ・分娩進行状況の理解	◆受けもち産婦の情報収集と看護の実践 ・陣痛の観察、児心音の観察、産婦の訴えの変化、破 水の観察 ・分娩監視装置の装着とモニタリングの理解 ・分娩進行を担当助産師や看護教師と評価 ・陣痛発作時の看護、安楽な体位・姿勢の工夫、睡眠 と休息、食事と水分摂取、排泄、清潔の援助家族へ の配慮について見学と実施 ・分娩時の呼吸法、努責指導、清潔の援助、安楽の工 夫 ・児娩出後の胎盤娩出状況、子宮収縮状態の観察、母 子対面場面の見学
休憩	LDR 室	・分娩経過に応じた看 護の理解	◆分娩の立ち会いについて ・分娩は了承が得られた場合のみ、正常分娩もしくは 帝王切開分娩に立ち会う ・経陰分娩の立ち会い許可を頂けた学生は入室のタイ ミングをスタッフと相談する ・帝王切開分娩の立ち会い許可を頂けた学生は担当助 産師とともに手術室へ入室する ※帝王切開立ち会いの詳細は実習前日のオリエンテ ーション時に用紙を配布する
15:00	カンファ レンスル ーム	生命の誕生についての 思いを表現、共有し母 性観を深める	◆学生カンファレンス テーマ「生命について感じたこと考えたこと」 分娩に立ち会うことができた場合、生命の誕生につ いて感じたこと考えたことを話し合う
16:15			

<手術室入室前の更衣について>

- ① 手術当日の朝、学生は病棟へ行く前に手術室更衣室から術衣のみ持ち出す
※緊急手術の場合、受け持ち学生は産婦の傍にいたため、代わりにグループメンバーが術衣を
取りに行く
- ② 持ち出した術衣は病棟更衣室の指定された場所へ置く
- ③ 更衣時間を指導者へ確認して手術立ち会い前までに更衣をする
- ④ 学生であることがわかるようにテープに油性マジックで名前を記載し術衣に貼付する
※テープは教員に確認する 記載例:

学生 清水看子

- ⑤手術終了後、病棟で白衣に更衣して術衣は病棟のランドリーボックスにいれる

(4) 褥婦の看護実習

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階 (1 日目と 同じ)	産褥経過の理解と対象 に合わせた具体的な看 護実践の理解 子宮復古促進の援助	◆受けもち褥婦の情報収集と看護の実践 ・受けもち看護師又は看護教員と受けもち褥婦の観察 (全身状態、子宮復古状態、乳房と乳汁分泌状態の 観察) ・子宮復古促進の援助を看護師または教員と実施

休憩		乳汁分泌促進の援助 育児不安への支援 退院後の生活支援につなげる	- 産褥体操のパンフレットを作成し、体操の指導と実践を行う - 授乳の様子を見学し、看護師・看護教員と授乳介助 - 堤式マッサージ方法の指導の見学 - 沐浴指導の見学、退院指導の見学 ※受けもち褥婦の新生児の情報収集を行う ◆学生カンファレンス テーマ：学生間で相談の上、当日決定する ・1日の実習の振り返り
15:00	カンファレンスルーム		
16:15			

3) 6日目 新生児室実習 (9時間×1日間)

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階(旧3B)で管理報告 その後、旧3Aへ移動して産婦人科の申し送りを受ける。 その後新生児室で申し送りを受ける)	新生児の生理的变化の理解 新生児に必要な育児技術の理解 母乳哺育の確立の視点で看護を考える 出生直後の児の看護の理解	◆受けもち新生児の情報収集と看護の実践 - 申し送りに参加する - 担当看護師に挨拶し実習目標を発表する - 紙カルテもしくは電子カルテを使って受けもち新生児の出生後の経過を情報収集する - 受けもち新生児のバイタルサイン、全身状態の観察、黄疸チェック、体重測定、哺乳量と時間を確認する - 出生経過の生理的变化をアセスメントする - 新生児の検査、診察、処置の見学 - 観察したことから沐浴が可能であるかアセスメントし、観察した結果をふまえて看護師に報告する - 看護師が行う沐浴を見学、集団沐浴指導の見学 - 受けもち新生児の沐浴の実施 - 受けもち新生児の沐浴中、後の観察をし、報告する - 授乳の介助、ミルクの補充、抱き方、あやし方、K2シロップの投与 - アプガースコア、原始反射の観察 - 出産があった時には、出生直後の処置を見学する - 出生直後の児の取り扱い、観察、計測 ◆学生カンファレンス テーマ：学生間で相談の上、当日決定する ・1日の実習の振り返り
15:00	カンファレンスルーム		
16:15			

<受けもちについて>

3階に入院している女性1名を4日間(対象の状況により2名以上受け持つこともある)、受け持ち褥婦の新生児を1日間受けもち看護を実践する

新生児を受けもつ際には、清拭または沐浴を実施する(受けもち褥婦がいない場合は、在室の新生児を受けもつ)

※分娩状況により対象者が不在のこともあり、受けもちは実習当日に決定する

※風邪症状がある場合は、新生児室実習は行わず、実習場所を相談する

<記録について>

① 病棟実習記録は母性看護学実習記録Ⅰとラベルを記入する

※受け持ち情報用紙は対象理解のために活用する(評価対象には含まない)

② 記録物は、個人の実習ファイルに綴じ込み、翌日実習開始前に3階病棟の所定の場所に置く

3 外来実習（2日間）

1）1日目（9時間×1日間）

（1）オハナクリニックの産婦人科外来・アロハ外来・各種教室

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:15		妊娠経過を支える外来看護の役割について考える	前日までにオハナクリニックのホームページを見て、施設情報を得てから実習へ行く 当日は診療所の予定に応じて実習をする
8:30	オハナクリニック 1階外来ブース（1診か2診）	女性特有の健康問題を抱える方への外来看護の役割について考える	◆訪問時 1）診療所の正面玄関右側にある「STAFF ONLY」の通路を進みインターフォンを押す 2）控室で更衣、貴重品と電子端末を金庫で管理する（二人で1つ） 3）本日の実習目標を記入した実習記録Ⅱをバインダーに挟む 外来へは水筒、筆記用具、メモ帳のみ持参する 4）オリエンテーション後、清掃に参加
9:00	1階アロハ（助産師）外来ブース	地域における産婦人科外来の役割について考える	◆外来実習中 1）担当看護師（1診か2診）に挨拶し実習目標を発表する 発表時は経験したいことも伝える 2）看護師の指導のもと診察の介助を通して以下の体験をする
	各種教室 スタジオ		＜産科・アロハ（助産師）外来＞ ・外来実習2日目に準ずる ＜婦人科外来＞ ・初診時の診察の見学と介助、外来カルテより情報収集 女性特有の健康問題を抱えた方の診察の見学と介助、 不妊症の検査や診察の見学、日常生活指導の見学 ・了承の得られた対象者を1名受け持ち、外来カルテから情報収集をした上で、待合ブースから診察終了まで対象者と行動を共にする
休憩	学生控室		＜各種教室＞ ・実習日が教室開催日であれば、指導者に教室参加を伝え、待機場所、動き方を開催時間までに確認する
15:45	学生控室		◆学生カンファレンス（指導者と学生のみ 教員は不在） ・事前にカンファレンス時間を調整する ・カンファレンス内容を紙に記載し、病棟実習に戻り次第カンファレンスノートへ貼付する
16:15			・診療所で体験したことは、後日情報共有する ・1日の実習の振り返り

＜移動手段＞

自転車・バイク可 施設の駐輪場を使用する際は指導者へ何を駐輪しているのか伝える

＜服装について＞

私服で登校し、控室でユニフォームに更衣 靴は体育館シューズ

髪は束ねる、名札、消毒、マスク ※マツエク、香水禁止

＜持ち物＞

事前学習資料・テキスト・バインダー・昼食（ごみは持ち帰る）・水筒・体育館シューズ

＜記録について＞

① オハナクリニック実習は母性看護学実習記録Ⅱとラベルを記入する

② 記録物は、個人の実習ファイルに綴じ込み、翌日実習開始前に3階病棟の所定の場所に置く

2) 2日目(9時間×1日間)

(2) 清水病院の助産師外来(午前)・助産師相談室(午後)

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階(旧 3Bで管 理報告 その後、 旧3Aへ 移動)	妊娠経過を支 える外来看護 の役割につい て考える	当日の予約時間に応じて午前は助産師外来、午後は助産師相談室で実習する ◆外来へ行く前 1) 当日までに対象者の情報収集をして、援助計画を立案する 2) 臨床指導者に相談をしながら必要なら媒体(パンフレットなど)を用意する 3) 前日までに外来担当助産師がわかる場合は、挨拶をして、母子の予約時間を確認する 挨拶ができなかった場合は当日9時から助産師外来が始まるため、それまでに外来担当助産師と打ち合わせをする ※媒体がある場合は朝、担当助産師へチェックを依頼する 4) 実習目標を発表する ◆外来実習中
9:00	2階 助産師外 来		1) 助産師の指導のもと以下の体験をする ＜午前：助産師外来(妊婦健診)＞ ・腹囲、子宮底の測定、レオポルドの触診、児心音の聴取、ノンストレステストの実施、超音波検査の見学、内診の介助、妊婦の生活指導の見学・実施
休憩			
13:00	2階 助産師外 来		＜午後：助産師相談室(産後健診)＞ ・産後2週間・1か月健診の見学 ・子宮底の測定、褥婦の生活や育児指導の見学・実施 2) 実践後、助産師と振り返り ◆外来後
15:00	カンファ レンスル ーム		1) 午前外来の場合、病棟に戻り実習記録の記載、病棟で受け持ち褥婦や新生児と関わる 2) 午後外来の場合、午前は指導の練習、病棟で受け持ち褥婦や新生児と関わる ◆学生カンファレンス(病棟実習の学生とともに行う) ・病院の外来で体験したことは、情報共有する ・1日の実習の振り返り
16:15			

(3) ハローベビークラス (母親学級)

前期：毎月第1水曜：(対象者：妊娠13週から20週の妊婦)

後期： 第3水曜：(対象者：妊娠30週以降の妊婦)

時間	場所	ねらい	学生の動き
12:30	新館3階 会議室	母親学級に参加し、妊婦集団指導の実際を理解する	実習期間中にクラスが開催される場合のみ参加する ◆クラスの準備 ・当日朝までにクラス担当助産師に挨拶をして、学生参加人数を伝える ・当日担当助産師の指導のもと必要物品の準備 ・参加者の誘導や受け付けの対応 ◆母親学級に参加 ・集団指導の見学、グループディスカッションへの参加 ・担当助産師の指導のもと会場の片付け
13:00			
13:30 ～			
15:00 (延長もあり)			
15:30	カンファ レンスル ーム		◆学生カンファレンス (病棟にて) テーマ：「母親学級に参加して」 ・1日の実習の振り返り ※外来実習や分娩見学と重なる場合は、参加の有無を教員や臨床指導者と相談すること ※実習期間中にクラスが開催されない場合や上記のような事情により見学ができなかった場合は、病棟内での集団指導に参加すること
16:15			

<記録について>

① 助産師外来・相談室は母性看護学実習記録Ⅰとラベルを記入する

※受け持ち情報用紙は対象理解のために活用する (評価対象には含まない)

② 記録物は、個人の実習ファイルに綴じ込み、翌日実習開始前に3階病棟の所定の場所に置く

4 助産所実習 (9時間×1日間)

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	助産所	助産所を訪れる対象と関わり、安全で快適な妊娠・出産・育児を理解する 地域における助産所の役割について理解する	前日までに教員からオリエンテーションを受ける ※助産所の開院時間を確認すること ◆助産所の日程に応じ、助産師の指導のもと実習する 施設ごと訪問時刻を教員へ確認すること ・妊婦健診や新生児訪問の見学、子育てサロンの参加 ・助産師の対象への関わりを見学 ・今までの学びや体験をもとに、できるところは助産師と一緒にいき、妊婦・褥婦・新生児と関わる ・助産所が果たす、地域における役割について考え、助産所実習記録に表現する ◆学生カンファレンス (助産院長と学生) ・カンファレンス内容を紙に記載し、病棟実習に戻り次第カンファレンスノートへ貼付する ・助産所で体験したことは、後日情報共有する ・1日の実習の振り返り
休憩			
16:15			

<移動手段>

自転車・バイク可 施設の駐輪場を使用する際は何を駐輪したのか助産所長へ伝える

<服装について>

白またはグレーのポロシャツ、黒またはグレーのパンツスタイル

常時サロンエプロン（胸当てがあるタイプ）を着用し、小児で作成した手作り名札をつける

髪は束ねる

家庭訪問に同行することもあり、靴は運動靴

<持ち物>

スリッパ・サロンエプロン・事前学習資料・テキスト・昼食（ごみは持ち帰る）・水筒

<記録について>

① 母性看護学実習記録Ⅲとラベルを記入する

② 記録物は、個人の実習ファイルに綴じ込み、翌日実習開始前に3階病棟の所定の場所に置く

5 実習10日目 学びの統合（5時間）

時間	場所	ねらい	学生の動き
12:30	清水看護 専門学校	母性の対象への援助を 通して自己の学びの 整理、母性観を深める	リーダーは出欠確認をして12:30までに教員へ報告 制作に必要な物品（模造紙、サインペン、色画用紙など）を教員からもらう ◆最終ワーク 日々の実習体験を通し考えた、母性看護における倫理 （生命の誕生・命を育てることの意味、生命の尊厳、 母性観など）を表現する 女性支援のための施設が果たす役割を表現する <方法> 1) 10枚のラベルを読み、その時々思ったこと、 考えたことを思い出す 2) それらを手がかりに自分の考えや意識がどう変化 していったのか見つめる 3) 模造紙にラベルを配置し、図解（チャート）を作 成していく。表現の形式の制限はない。イラストや 内容を分類したり表を作成したりつながりに矢印 を加えたり自由に表現していく 4) メンバー全員で日々の倫理を踏まえた「母性看護 学実習の学び」を模造紙に表現する
15:00	発表		
16:15			◆発表 病棟指導者同席のもと指導者より助言を受ける ※前日までに臨床指導者と当日の発表場所と時間を 調整しておくこと

VII ラベル作成について

1) ねらい

病院や施設で出会った女性とその家族との関り（関われなければ、看護師や助産師の言動、体験記など）から、生命倫理について自己の考えを深める。また自己の倫理観を振り返る。

(1) ラベルを書く

見学実習、実習1日目から9日目までの計10枚を記入する。日々の実習の中で印象に残った場面を振り返る。女性とその家族、看護師や助産師の言動を自身が「どのように考えた」のかを意識して記入すること。

*ラベルの書き方

(記入例)

産褥1日目。Aさんが円座に座りながら「上の子は良く飲んだのに、この子はあまり飲まないから心配」と第2子への不安を授乳室で助産師に話していた場面
一晩眠れず、疲労と痛みが蓄積されている自分の身体のことよりも児を1番に考えている。経産婦であっても育児は手探りであり、命を育てるという責任は何ものにも代え難い。 □

(2) 書いたラベルの使用方法

黄 色：その日の実習記録のラベル枠に貼る

ピンク：最終記録提出時にまとめて担当教師に提出する

白 色：最終日のワークで模造紙に使用する

VIII 最終レポートについて

最終発表終了後に「女性が地域で安心して暮らしていくための母性看護の役割」について表現する

表紙：要（題、学籍番号、名前、担当教員を記載）

設定：横書きで1200字以上1600字以内（文字数カウント記載） ※手書き、パソコンどちらでも可

IX 実習記録

記録類は、以下の順にそろえて提出する

- 1 母性看護学実習評価表
- 2 最終レポート「女性が地域で安心して暮らしていくための母性看護の役割」
- 3 母性看護学実習記録Ⅰ（3階病棟、助産師外来・相談室）
- 4 母性看護学実習記録Ⅱ（オハナクリニック）
- 5 母性看護学実習記録Ⅲ（助産所）
- 6 母性看護学実習記録Ⅳ（女性会館）
- 7 受け持ち情報用紙（評価対象には含まれないが、記載した場合提出する）
- 8 指導パンフレットのコピー

X 実習計画表

	見学実習	実習 1 日目	実習 2 日目	実習 3 日目
実 習 内 容	静岡市女性会館（4 時間） 館内見学と説明 ワーク 女性会館の役割について 考える	病院実習① オリエンテーション	病院実習② 婦人科女性もしくは妊産 褥婦を継続して受けもち 看護を実践する	病院実習③ →
記 録	母性看護学実習記録Ⅳ ラベル →	母性看護学実習記録Ⅰ (受け持ち情報用紙)	母性看護学実習記録Ⅰ (受け持ち情報用紙)	母性看護学実習記録Ⅰ → (受け持ち情報用紙)
C F	ワーク	15:00～カンファレンス 「オリエンテーションを通し て、感じたこと考えたこと」	15:00～カンファレンス	15:00～カンファレンス
	実習 4 日目	実習 5 日目	実習 6 日目	実習 7 日目
実 習 内 容	病院実習④ →	病院実習⑤ →	新生児室実習 受けもち褥婦の新生児を 受けもち、看護を実践する	外来実習① オハナクリニック 午前：産婦人科外来 午後：アロハ外来、教室 外来見学 女性を一人受け持ち、診療 の間同行する
記 録	母性看護学実習記録Ⅰ ラベル → (受け持ち情報用紙)	母性看護学実習記録Ⅰ (受け持ち情報用紙)	母性看護学実習記録Ⅰ (受け持ち情報用紙)	母性看護学実習記録Ⅱ →
C F	15:00～カンファレンス	15:00～カンファレンス	15:00～カンファレンス	15:45～カンファレンス (施設と時間調整)
	実習 8 日目	実習 9 日目	実習 10 日目	
実 習 内 容	外来実習② 清水病院 午前：助産師外来 午後：助産師相談室 母親学級 妊婦か褥婦を受け持ち、看 護を実践する	助産所実習 助産師の活動見学 助産所の役割について考え る	学内実習（5 時間） ワーク 母性の対象への援助を 通して自己の学びの 整理、母性観を深める	※カンファレンスのテー マはメンバーと相談の上 決定すること
記 録	母性看護学実習記録Ⅰ ラベル → (受け持ち情報用紙)	母性看護学実習記録Ⅲ →	最終レポート 「女性が地域で安心して暮ら していくための母性看護の役 割」	
C F	15:00～カンファレンス	15:00～カンファレンス (施設と時間調整)	15:00～ (前日までに指導者と場所と 時間を調整)	

学習活動	具体的な評価基準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一歩努力を要する
母性看護の対象について理解する	対象者の身体・心理・社会的な健康状態を表現している	対象理解 探求心 調整力	1日の実習計画表 外部実習記録 面接 ミーティングの発言	対象者の健康状態を基礎的知識と関連させ、系統的に解釈している。 20	対象者の健康状態を知るために、指導者の助言を受けて、必要な情報を収集し解釈している。 15	対象者の健康状態を知るために、指導者と一緒に情報を収集し、解釈している。 10	対象者の健康状態を知るために得た情報を表現している。 5
母性看護の対象者に必要な看護援助を実践する	対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する	対象理解 実践力 倫理観	1日の実習計画表 外来・外部実習記録 実習状況	対象者の健康に向けたねがいを表現し、対象者の経過や状態に合わせ、安全・安楽・自律に留意した看護援助を根拠に基づいて実践している。 25	対象者の状態に合わせた必要な看護援助を、根拠を明確にし、実践している。 15	気づきを視点に、対象者に必要な看護援助を実践している。 10	看護師が行う看護援助を、指導者と一緒に実践している。 5
看護専門職者としての倫理観をもつ	生命の尊厳について自己の考えをもち、対象者の考えを尊重して関わる	調整力 倫理観	1日の実習計画表 外部実習記録 面接 ミーティングの発言	対象者の価値観、生活習慣、慣習、信条等を尊重して関わり、生命倫理について自己の考えを表現している。 20	対象者の思いや意向に合わせた関わりをしており、生命の誕生に対する自己の考えを表現している。 15	対象者の思いや意向を尊重するために必要な関わり方について表現している。 10	対象者の思いや意向について情報収集している。 5
母性看護の役割を理解する	女性が地域で安心して暮らしていくための、母性看護の役割を表現している	探求心 倫理観	最終レポート 実習状況 面接 ミーティングの発言	日々の様々な体験をもとに、地域における切れ目のない多職種連携について自己の考えをもち、母性看護の役割を表現している。 20	実習体験をもとに、母性看護の役割を表現している。 15	日々の実習体験を振り返り、得たことを表現している。 10	自己の体験を表現している。 5
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るために適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している。 15	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。 10	看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るという視点で自己の行動を振り返っている。 3	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。 0

欠課時間

()時間／90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン